

# 田中 辰雄 准教授

専門:計量経済学

(インタビュアー:木屋・石田)

## 『情報に関わる産業における計量分析』

### Q. 田中先生の専門とされている研究内容はなんですか？

メディア、コンテンツ、通信など情報通信産業における情報を全般的に計量分析しています。具体的な例をあげると、パソコンやスマホやインターネット、コンテンツ各種、音楽、映画など各種産業における計量分析を行っています。ゼミでは、三田論までは情報通信産業における計量分析を行います。ただ、卒論では計量であれば何でもいいですし、より視野を広げた研究を行っています。僕のやっている研究とほぼ一致しています。

## 『明るく楽しく、計量の基礎を身に着けよう。』

### Q. 田中先生の教育理念を教えてください

一応二つあげますと、一つは計量分析の基礎力をつけることです。もう一つは、明るく楽しい思い出を作ることです。そのために、学生の興味関心を聞くようにしています。本人のやる気がないとどうしようもないので、できるだけ興味を聞いて、テーマ設定をするようにしています。

学生時代に重要なのは基礎的ノウハウ、技術を叩き込むことです。よく創造性とか言いますが、クリエイティビティは教育としてはなかなかつくれないんですよ。先生でもあるか分からないですし(笑)、独創性っていうのはほっといても出てくるものなんで、先生が与えられるのは基礎的な知識やノウハウだけです。

ですから、基礎的な能力や知識っていうのは、学生時代から叩き込んだほうがいい。ただ、テーマ設定は自分の興味を持った分野にしたほうがいいですね。自分が興味がある分野じゃないとやる気がでませんから。自分の興味ある分野にこういう知識・ノウハウで立ち向かうとこういうことが分かるのか、という驚きがあるとやる気ができます。

### 『多趣味だった学生時代』

#### Q. 田中先生の学生時代のお話を聞かせてください

高校の時は山登りをしたり、映画を作ったりしていました。それから大学の時は演劇をやっていました。

今は山登りはしていません。高尾山で精いっぱいです(笑) 演劇もたまに鑑賞する程度です。今はスマホいじって、ネットいじっている、ネット廃人です(笑) 趣味に時間を費やすほどの時間はないので、丸一日とか半日必要としない、空き時間にできることをやっています。

IT産業に興味を持った理由は、パソコンいじりが好きだったんです。その流れで、ネット上で色々なものを探しまわったり、ゲームしたりしています。

学生の時は経済学全般に興味があって、だんだん計量にシフトしていったという感じです。理論にも興味があったんですけど、自分の向き不向きとして計量が向いていると思いました。それから手法よりも、実際上の問題に関心がありました。こういう問題を解きたい、社会におけるこういう問題を答えたいという気持ちがありまして。手法よりも問題のほうに先があって、例えば著作権の問題をなんとかしたい、それからマイクロソフトの独占を何とかしたい、国のIT産業の競争力をどうあげるとか。最初に問題があって、問題に答えようという着想をとって、そうすると理論よりは実証分析がメインになりました。これらの問いに理論で答えられることは非常に少ない。基本的には実証分析で答えなければならない。すると結果的には実証分析のほうにだんだんシフトしていきました。

### 『意欲的な人を歓迎します!』

#### Q 田中ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか?

ITと計量のどちらかに興味を持っていただければいいです。あとは当人の意欲ですね。意欲的な人を歓迎します。能力よりも意欲が大事です。皆さんの内側から出てくるテーマ設定が大事なのでそれがないと少し辛いですね。スマホが好きです、音楽に関心があります、ライブをやっています、パソコンいじりが好きです、アップルがなんであんなに成功をしたのか知りたいです、自分もアマゾンみたいなのを作りたいです、ベンチャーをやりたいです、などのように問題意識がある人に来て欲しいですね。情報に関するもので、好きなものを一つでも持っているといいです。広い意味で、情報にひっかかればいいです。例えば今年の例で言うと車が好きな人がいましたが、車の中にも情報関連のものがあります。何か好きなものがいくつかあれば、それをネタにして卒論をかけると思います。

これからデータアナリストの需要がこれから伸びてきます。インターネットの普及によって、膨大なデータがとれるようになりました。各個人のマイクロデータ、これまで考えられなかった個人の行動ですとか、どこで何を買ったという情報ですとかどこに何人ひとがいるのか、人の噂話をtwitterでとれたりとかです。すると、それらのデータを解析する必要性が増えてくる。実際に企業もfacebookやtwitterなどをさかんに解析しています。それ以外にも様々なデータを解析する必要性が増えてきます。データ解析の力を身につけたいという人はうちのゼミに来ると、入口みたいのところまで、引っ張っていけると思います。インターネットの普及によって膨大な量のデータが流れるようになり、それを「ビッグデータ」というんですけども、データアナリストやデータサイエンティストといった仕事をしてみたい人もうちのゼミに来るといいと思います。

### 『自分の強みとなるものを持とう!』

### ☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

明るく楽しく、行けるとこまで走って行ってもらいたいと思います。強いて言えば、極端な趣味を一つ持っているといいですね。例えばむちゃくちゃジャズをやったとか、踊りにはまって路上で踊ったとか、プログラミングでアプリをつくって儲けたとか、パソコン自作が講じて秋葉原でバイトしているとか、

何か一つ徹底的にやったというものを持っているといいですね。あとは、大学を出てから実社会に役立つこともひとつ持っているといいでしょう。例えば、英語ができる、簿記ができる、ですとか。自分の趣味と実用的なもの、二つ持っているといいんじゃないですかね。そういう人は話していて面白いですよ。ぜひ自分の強みを持っているといいですね。

#### 「編集後記」

先生がご多忙ということもあってインタビュー時間が非常に短くなってしまっただが、我々インタビュアーに丁寧に対応して下さい、短時間の中でも先生のバックグラウンドについて、多くの情報を得ることができた。

田中先生、この度はお忙しい中教授インタビューにご協力いただき誠にありがとうございました。